

令和4年度生野区区政会議(第1回こどもの未来部会)
主なご意見等(要約)と区の考え方、対応

参考資料 3

開催日: 令和4年6月1日(水)

場所: 生野区役所6階 大会議室

ご提言(要約)	区の考え方、対応(要約)
いくの未来塾の受講者(子ども)に直接アンケートを取っているか。また、アンケートに子どもたちの意向が何か書かれていたか。(子どもたちの意見があれば)それを踏まえたうえで、どういった事業を展開していくのが一番だと思うので、ぜひ子どもの意見を大切にしていたきたい。	塾事業及び生きるチカラまなびサポート事業につきましては、受講生に実施前後のアンケートを取っています。その中の感想等の自由記述を含め、アンケート結果につきましては、事業展開の参考にしています。
次世代の学校づくりのテーマについては、生野区はずっと「未来を生き抜く」より「未来を生き合う」ための力の育成を目指してきたのではないかと感じている。こどもの未来を考える部会なので、丁寧に子どもの声を確認してもいいと思う。	
子ども食堂をやっていたが、親の居場所にもなっていた。不登校になっている子どもを地域で関わる大人が支援するのは、なかなか難しい。子どもたちがもっと楽しく学校に行けるようになるために、地域の大人もカウンセリングなど相談するところが欲しい。	不登校等によるこどもの孤立化を防ぐために、地域の大人による関わり方を学ぶ勉強会や講演会等、場と機会を検討してまいります。
学校再編によって、通学距離が延びてしまった小・中学校は、PTAや町会など、各組織の線引きがあるので、通学路全体を見守りに行くことができない。地域がまたがることで通学の見守りが難しくなった。地域で見守りしてくださる方の高齢化も進んでいる。通学の安全については、危ない箇所をもう一度見直して何かできる手段をとっていただきたい。組織が分断されていることについては、どこに相談しながらまとめていくのが一番いいのかという仕組みをどこかがイニシアティブをとって設けてほしい。	令和3年度には文部科学省からの通知に基づき全小中学校で通学路の安全点検を行っておりますが、再編のあった学校については4月以降実際に通学して実際に判明した事項もあると思われるため、「大阪市通学路安全プログラム」について今年度に優先的に実施することを検討しております。

ご提言（要約）	区の考え方、対応（要約）
こどもの見守りは防犯協会が生活のついでに見守ることがスタートになっている。小学校のPTA、中学校のPTA、防犯協会、みんなまちづくり協議会に入っているはずなので、まずはまちづくり協議会でしっかり話してもらって、それを行政にあげていく方が、順番としてはスムーズに進むと思う。新しい学校では、PTAの中に通学路の安全を常置委員会として置かれている学校もあるとのこと。行政の方から、ボランティア保険や、皆さんが動きやすいような組織、新しい組織、地域に合わせたやり方について指導というか、声をかけてもらいたい。	・各組織でのこどもの見守り活動の実態やまちづくり協議会との関わりを把握し、検討してまいります。 ・いくつかのまちづくり協議会においては、通学路の見守り活動をまちづくり協議会の事業として設定し、「大阪市民活動保険」にご加入いただいております。他の地域においても、通学路の見守り活動をまちづくり協議会の事業としていただくことで、「大阪市民活動保険」の対象とすることができまので、情報提供してまいります。
校区が広がったので、通学する時間が早くなった。今まで通りの時間ではなくて、一番忙しい時間に見守りをお願いしなければならない。ボランティアでは少し難しいので、学校再編した行政が見守り隊を出してほしい。	・通学路における児童生徒の安全確保につきましては、地域や保護者の方からなる学校適正配置検討会議において保護者、地域住民の方と議論し、開校までに対策を行ってきました。各地域の見守り隊につきましても、検討会議の議論の中で引き続き活動していただくようお願いし、ご協力いただいているところです。 ・今後、行政としましても学校と連携し、見守り体制の一層の強化に繋がるようなことについて検討してまいりたいと考えています。
学校再編に伴う課題について、行政は最初の声かけだけで、何かあれば言ってくださいというが、それぞれの実情を聞きに来て一緒に考えてほしい。最初に予想していたことと、始めてみたら違うということがあるので、やはり振返って確認することが大事だと思う。通学路のことも、子どもの意見はどうだったのか。再編後に学校が始まってから、新たに生まれた課題もあるので、振返って話せるような場を作っていただきたい。	・学校では、保護者や地域住民の方などの意向を学校運営に反映するため「学校協議会」を定期的を開催しています。ご意見等があればこの協議会でお伺いしていきます。 ・なお、再編により新たに開校した学校とは、引き続き連携を密にとり、支援してまいります。

令和4年度生野区区政会議（第2回こどもの未来部会）

主なご意見等（要約）と区の考え方、対応

開催日：令和4年10月28日（金）

場所：生野区役所6階 604・605会議室

ご意見等（要約）	区の考え方、対応（要約）
企業と小中学生、障がいのある方のNPOも生野区は多いと思う。こういう人たちと本気でコラボして商品を開発して売れるものをつくり、他の地域にも売り込んでいかないといけないのではと思うし、区役所が頑張してほしい。	10月28日報道発表の「IKUNO×ものづくり×ICT 次世代の職業体験プログラム」において、株式会社ダイヤのご協力の元、桃谷中学校生のキャリア教育など学校支援を推進してきたところです。同様に企業とNPO、学生間のマッチングについては今後とも、様々な手法を検討し、推進してまいります。
子育てしやすいことのアピールで、区内で自分たちのイベントをどのように知らせていくかが課題にある。区内のこともだけでなく、地域のだんじりや夏まつり、秋まつりなど生野区のイベントを区外にアピールができる媒体は何かないのか。	区の広報活動として、広報いくのをはじめ、twitterやFacebookなどを活用していますが、タイムリーな話題を発信する場合には、官民連携で立ち上げた「いくのぐらし.com」というサイトもあることから、様々な情報媒体を活用して、生野区のイベント情報について、広くお届けできるように工夫を凝らしてまいります。
住んでいる人に生野区の魅力の発信が必要と思った。生野区の魅力をPRすると来てくれるが、住まない。住むことに対する直接的な補助はあった方がいいと思う。コリアタウンに来る人に、空き家等を活用して、お試しで住んでもらい、生野の魅力を知ってもらいたいなことはできないのか。	生野区に住んでいる方のまちへの愛着が高まるように、そして外部の方に生野区のまちに住んでみたいと思ってもらえるように、区役所としてもまちの魅力向上に向けた取組を続けるとともに、区内外にしっかり伝えてまいります。また、利用可能な空き家等を地域資源として捉え、まちづくりの一環として地域活性化に取り組み、まちの魅力向上等に繋げる必要があると考えております。空き家の利活用として、オーナーと活用希望者とのマッチングについては民間事業者と連携し、所有者へアプローチを行い、具体的なニーズに対応しながら空き家の活用を促すなど、様々な手法をもって利活用の促進を進めてまいります。
空き家がコインパーキングに代わってる。空き家を活用し企業の創業や起業につなげないと、子育て世代を呼び込んでいくことに繋がっていかないかと思う。	空き家を放置していると、いわゆる「特定空き家」になることから、利用可能な空き家等を地域資源として捉え、まちづくりの一環として地域活性化に取り組み、まちの魅力向上等に繋げる必要があると考えており、様々な関係機関や民間事業者と連携し、空き家の活用を促してまいります。
生野区の魅力を他区で宣伝してはどうかと思う。大阪市で人気の区の魅力の理由を分析して、生野区の魅力とは何か考えたい。 生野区に移り住んでもらいたい、ということだが、他の区が減ってもいいのか、生野区だけよかったらいいのかと思う。取り合いをするよりも、今の人を大切にして、結果人が増えましたということの方がいいのではと思う。	今後、全国的にも人口減少が見込まれる中ではありますが、生野区のまちの特色が活かされ、住んでいる方やそうでない方にもより愛着をもっていただけるような魅力あるまちになるように取り組んでまいります。

令和5年度生野区区政会議（第1回こどもの未来部会）
主なご意見等（要約）と区のお考え方、対応

開催日：令和5年6月14日（水）

開催場所：生野区役所 5階 502・503会議室

ご意見等（要約）	区のお考え方、対応（要約）
オンデマンドバス、生野区役所が企画をして狙ったとおりにそのように展開していることについては、本当にすごい企画でよかったと思っているので、区政会議なり区役所さんたちの努力というのをここで実感した。	この度いただきましたご意見につきましては、大阪メトロと共有させていただきます。
オンデマンドバスについて、利用する人が増えていてよいと思うが、さらに活用してもらうために、乗り方や利用のしかたをもっと宣伝すべき。気軽に情報提供ができるように、たとえば名刺サイズのカードにORコードをつけたものなどがあると周知が広がると思う。	
オンデマンドバスの配布物はあるが、子ども用ではなくて一般用で、停留所が増えて新しく印刷されたものもあるので、それを小学校・幼稚園用にアレンジして配るのもいいアイデアだと感じる。	
今は広報紙でも、とても明るい感じで、地域住民としての外国人の人の紹介の在り方だとか、こういう国から来ているので、こういう特色があるので、こういうように生活していますといったことが多く紹介されるようになったことがとても喜ばしく、今他の地域で教育関係の仕事をしている者としては、「生野区はこういうことがありますよ」と宣伝ができるようになったこともうれしい。	生野区は区民の5人に1人が外国人住民、そしてそのルーツは約60の国や地域にわたるグローバルなまちで、日常から外国人住民の方々と接する機会が多いまちです。そういった日常の暮らしや文化などを広報紙などにより広く区民に知っていただくことで、相互理解もより深まり、区内だけでなく、区外にもグローバルなまち、共生のまちとして広く知っていただくことにつながり、ひいては区の魅力向上につながるようにと期待しております。
生野区がやってることは実はすごい。そのことを宣伝をしながら、子どもたちが、今住んでる人が出ていかなないようにするのももちろん、出ていったときに戻ってこれるようにするところも大切かと思う。	いただいたご意見のとおり、区に暮らす方々が区外に転出した後も、また区に戻って暮らしていただけるようなまち、住みたい、住み続けたいまちと思っていただけるように、多様な魅力資源をもつ生野区のまちの魅力向上とプロモーションを進めてまいります。
生野区ブランドの認知度を高めることは大切であると思う。	
生野区には、宝物はいっぱいあると本当に思っている。私たちの持っている宝を最大限活用し、広がってるということが分かるようになればと思う。	
学校の再編の際には、通学路の安全も考慮してほしい。	学校再編に伴う通学路の安全対策につきましては、対象校の保護者・地域の方々等で構成する「学校適正配置検討会議」において、実現可能な対策を検討してまいります。 また、その検討内容を踏まえ、本市関係部局や警察等と連携を図り、新たな学校の開校までに通学路の安全対策を実施してまいります。

ご意見等（要約）	区の考え方、対応（要約）
子どもの交通安全について、親と学校と地域が考えていく必要があるが、まずは親がもっとしっかり子どもにルールなどを教えるべき。	親への交通安全に関する啓発につきましては、小学校の入学説明会と3歳児健康診査において行っております。 また、子どもに対しては、新学期に朝礼での啓発活動を実施しております。また、子どもたちが楽しんで防犯・交通安全意識を持ってもらえるよう防犯標語「おこのみやき」運動、ガチ☆メン大会も開催しております。 今後も引き続き、様々な啓発活動を通じて、子どもたちの交通安全意識向上を図ってまいります。
学校の授業の後、そのまま補講授業というかたちで、学習力をアップさせたり、宿題ができたりするとよいと思う。塾に通わずとも、引き続きその場所で移動せずに自分のモチベーションを維持したまま時間を過ごすことができ、帰宅したら自分のオフの時間を過ごすというような環境ができればと思う。	授業後の課外学習につきましては、地域ボランティア等のご協力をいただき放課後学習の取り組みをしている学校があります。 また、区役所では「民間事業者等を活用した課外学習授業『いくの塾』」により、生野区内中学生及び義務教育学校後期課程生に向けた、放課後に学校施設の教室等を会場とした課外授業を実施しております。
教育について、勉強中心が行き過ぎているように思う。もっと生きていくうえで必要な学びの場があるのではないかな。	生野区では区内市立小中学校および義務教育学校へ、未来を生き抜く力の育成の視点に立ち、「生きるチカラまなびサポート」事業により、性・生教育とキャリア教育の出前授業を行っております。
生野区はものづくりや町工場など、伝統的な素晴らしい技術がある。そういった財産を最大限に生かしながら、障害のある方や外国人、子どもたちが学び、働き、成長していけるまちになっていけたらといいと思う。	生野区では、子供会育成連合会と共催で、区内の町工場のご協力を得ながら、お子様にもものづくり楽しさを知っていただく「こども工作教室」を毎年開催しております。また、生野区には、外国の方を積極的に採用している町工場や障がいをお持ちの方の声を聞いて商品開発を行っている町工場など魅力的な町工場がたくさんありますので、引き続き、ものづくり百景を活用しながらものづくりの魅力を発信してまいります。
子ども×ものづくり、子ども×オンデマンドバス、子ども×経験カリキュラム、その辺のところを含めながら、子育てがしやすい、教育が支援しやすいというまちづくりを私たちが考えていくことで、子育てが終わり教育が終わった人が、大人になってまたこの生野区へ帰ってきて子どもを産んで育てる。そんなルーチンがうまくいく生野区になることがこの部会として期待していることかと思う。	いただいたご意見のように、生野区には多様な分野にわたってたくさんの方の魅力資源が存在・潜在しております。それらを行政や区民のみなさんが発掘し、ともに磨き上げていくことで、次世代を担う子どもたちにも伝わり、それが将来また生野区で暮らしていくきっかけにもなり、生野区が持続可能なまち、発展していくまちにつながっていくものと認識しておりますので、今後も部会での委員のみなさまのご意見・ご議論を期待しております。